

世界に誇る仙台の防災



防災のお手本になる
都市に仙台は
選ばれているんだ！

● 防災ロール・モデル（模範）都市

仙台市は、国連防災機関（UNDRR）が実施する「世界防災キャンペーン『災害に強い都市の構築』」において、2012（平成24）年10月、世界で35都市目（日本では兵庫県に続き2例目）の先進的な防災都市「ロール・モデル（模範）都市」に認定されました。

国連は2010（平成22）年から実施している防災キャンペーンにおいて、世界各国の防災の取組のお手本となる取組を行っている都市を選んで、「ロール・モデル都市」として認定しています。震災前からの防災の取組や、復興において市民と行政が力を合わせた減災、そのための人づくりが高く評価されました。

現在も、市民と行政が協力してきた歴史を引き継ぎながら、人づくりに取り組んでいます。



ロール・モデル都市認定書授与の様子

● 第3回国連防災世界会議開催

東日本大震災2か月後の2011（平成23）年5月、仙台市は、震災の経験と被災地の再生を世界に発信するために、「国連防災世界会議」の誘致を表明し、2013（平成25）年12月に国連総会で仙台開催が決定しました。

会議は、2015（平成27）年3月14日から18日まで開催され、185カ国の政府代表団をはじめ

とした、政府間組織、NGO、国際機関などから、閣僚、国連事務総長など、6500人以上が参加しました。本会議と合わせて行われた一般公開の企画には延べ15万人以上が参加し、日本で開催された国連関係の国際会議としては最大級のものとなりました。この会議の成果文書として、2030年までを取組期間とする「仙台防災枠組」が採択されました。



国連防災世界会議の様子

世界が取り組むべき防災に関する指針 「仙台防災枠組」について調べてみよう



▲画像をクリック

私たちにとって、身近なことについても書かれています。

例) 防災・減災での女性や子ども、企業などあらゆる人たちや機関（ステークホルダー）の役割

・わたしたちが優先して取り組むべき行動

● 仙台防災枠組と SDGs

2015（平成 27）年 9 月、ニューヨークの国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、2030（令和 12）年に向けた国際社会全体の行動計画である「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（通称：2030 アジェンダ）」が採択されました。2030 アジェンダでは、17 のゴールからなる「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」が掲げられました。

SDGs は、防災だけでなく、貧困や環境問題など世界の様々な分野に関する目標ですが、関連する 169 のターゲットの中の一つに「仙台防災枠組」が登場します。ターゲットの中に名前が出てくる都市は世界でもカタールのドーハ、中国の北京、そして仙台だけなのです。



SDGs の 17 のゴール

調べよう

169 のターゲットには、どのようなものがあるか、調べてみよう。



● 仙台市の防災の取組を世界に発信しました

仙台防災枠組の取組期間が後半に入ることを受けて、2023（令和 5）年 5 月 18 日から 19 日に、「仙台防災枠組実施状況の中間評価にかかる国連ハイレベル会合」が、アメリカのニューヨークにある国連本部で開かれました。郡和子仙台市長が、災害を減らすためにできることなどをテーマにした意見交換に参加しました。

東日本大震災の復興支援に対する感謝の言葉や、震災遺構などのメモリアル施設を活用した防災教育などを例にした仙台市の防災の取組を英語でスピーチし、世界に呼びかけました。



会合の様子

考えよう

世界の防災の取組において、仙台市が果たす役割とはどのようなことでしょうか。また、そこに住む私たちが果たす役割とはどのようなことでしょうか。